

校長研修だより97

安定の定義

～年度末によせて～

2023・3・20 重枝 一郎

変化し続ける教育に対応する今の教育現場によくある世代論として、「今の若い先生は、生徒に甘すぎる」「何を提案してもベテランがOKを出さなければ変えられない」・・・教育現場で、ベテランからも若手からもこんな声を聞くそうである。こういうことは、世の中でもよくあると思うが、こと教育現場では、それが大きな壁となって、物事を決断するのに時間がかかってしまう。私も若い時勤めていた学校で、あまりにも会議が長く、探り合いの時間のような、結局、やる気が失せてしまう時間になった。私は職員室の柱に「長い会議は身体に悪い」と標語のような紙を貼った。ファシリテーター的なベテランは不可欠である。

教員を目指す人は、教員、学校について考えるベースは、それぞれの経験に基づいてしまう傾向がある。今の職員室は、大きく分けると、50代以上の教員、40代の教員、20～30代の教員といった3つの世代の層が存在している。3つの世代が、それぞれ自分が過ごした時代の学校をベースにしながら教育を考えるので、価値観のズレは生じる。では、それぞれどんな学生時代背景なのであろうか。

まず、50代以上。私も含め、この年代の人たちは、生徒数も多く、それに伴って教員数も多く、世の中は高度成長期に学生時代を過ごしている。受験戦争が厳しく、詰込み教育の全盛期で、世の中の価値観が「より上を目指す」であったため、「努力」が大事だと体に染みついている。自分はそうでないと思っても、そういうシャワーをしっかり浴びている。

次に、40代。50代以上の教員と同じように学生時代に一生懸命勉強してきたが、世の中はバブル崩壊、生徒も少子化傾向、それに伴って就職氷河期であった。しかも50代のボリュームが大きいので、もしかしたら、なかなか力を発揮しにくいのかもかもしれない。

そして、20～30代。私年代からすると「若手」と大きくくっってしまうところだが、この「若手」の中でもバブルを知らない世代、ゆとり教育を受けてきた世代、デジタルネイティブ世代といろいろである。この世代は、物心ついたときから、ずっと低成長の日本で育ってきているので、その前の世代とは全く違う価値観をもっている。受けた学校教育も異なっている。ベテランが、「努力」「達成感」という言葉を好むのに対して、この世代は、「自己肯定感」「居場所」といった言葉を好むというデータがある。社会が低成長であると、一人一人の存在意義を考えるようになるからだと思う。

このように職員室は、異なる価値観をもった多種多様な集団と言える。違いを認め合わないところから、教員同士がもめることもある。リーダー的役職においても、今は、ゆとり世代の若手教員が就くことも当然出てくる。この10年で確実に職員室の世代交代は進んでいく。今の若手は、教員として、どんな価値観で、これからの職員室を運営するだろうか。

「世の中が変わる。だから教育も変わる」。総論では、みんな賛成である。しかし、具体的な各論になると、まとまらない現実もある。教育の世界では、平成をごまかし、昭和のやり方がやりやすいため、変化を嫌う雰囲気もある。チャレンジしたい人がやる

気を失うこともある。いろんな思いがそれぞれにあると思うが、新しい教育を開拓していくのは、20～30代の教員たちである。彼らの生きてきた時代の流れにつながって、今と、未来はある。この世代は、「自分を成長させたい」という気持ちを強くもっている。私は、そのことを受け止めながら成長を見守っていきたいと思う。

・・・先日、渉外担当の藤田先生から新聞の切り抜きをいただいた。その記事は「リモート 叱られぬ日々」というものだった。ある大手企業の入社3年目の若手社員Aが同年代の他社の社員Bとの打ち合わせで、Bの知識と提案の質の高さに驚いたという話から始まる。Aの職場はリモート勤務が中心で上司と対面であった回数は数えるほど。叱られた経験もない。Aの職場は、残業が少なく給料も高い。そんなAが、同世代のBと打ち合わせたときにBから刺激を受け、「このままゆるい職場にいると社会から取り残される」と危機感を募らせたという話であった。

今企業は、長時間労働やハラスメントの対策で職場環境の改善が進んでいるが、逆にストレスは高まっているという調査結果を見た。特に中堅より若手の方が・・・。今は仕事の負荷が軽く、叱られる機会も少ない職場が、若手の危機感を逆に大きくしているというなんとも変な話である。

このような調査をしたリクルートワークスは、若者にとっての**安定の定義**は、大企業に勤めることから、どんな状況でも渡り歩いていけるよう経験やスキルを蓄積することに変わったと言う。

先生方にもう一度「仕事も経験のひとつ（校長研修だより65号）」を読んでみてほしい。必ず自身の変化もまわりの変化も日々ある。変化の先に進化がある。

私が思う安定の秘訣は、相手がどうであれ、とにかくいろんな生徒に関わり、感度を上げ、「行動」することである。「行動」すれば「経験」を手に入れることができる。もし、苦手なことに直面しても、それに立ち向かう「経験」をすることで、いろんなことの対応する引き出しを身に付けることになる。これは得意なことだけをしていては得ることができない。その引き出しを身に付けることができれば、前に進む力が倍増する。

そもそも私がどうこう思わなくても、本校には専門性を高めたり、仕事の幅を広げたりしたいと思う意欲のある先生は多いので、世の中から取り残される心配はないと思っている。

今年度も本当にありがとうございました。